

60年の歩み振り返る

東京 安達峰一郎記念財団が集い



関係者約60人が出席し、安達峰一郎記念財団のさらなる発展を誓った創立60周年記念の集い
＝東京・一ツ橋

山辺町出身の国際法学

者、安達峰一郎の偉業を後世に伝え、有為な国際的人材を養成しようと設立された安達峰一郎記念財団の創立60周年記念の集いが22日、東京・一ツ橋の如水会館で開かれた。これまでの歩みを振り返るとともに、講演などを通して「世界の良心」と言われた安達の理念に思いをはせ、財団のさらなる発展を誓い合った。

同財団の鈴木正貢理事長が歩みを紹介し、「単なる研究者の表彰や奨学金支給にとどまらず、安達博士のような実際に国際舞台に立って活躍する人を育てていきたい」とあいさつした。

続いて、同財団顧問の松井芳郎名古屋大名誉教授と、同理事の井上卓弥元毎日新聞編集委員が、財団活動の成果や、安達が国際的に果たした役割などについて

て講演した。

席上、安達の著作選発行や一連の啓もう活動に尽力

した同財団顧問の柳原正治放送大特任名誉教授を特別表彰したほか、第54回安達峰一郎記念賞の贈呈式も行われた。

同財団は、外交官や常設国際司法裁判所長などとして活躍した安達が希求した平和理念を受け継ごうと、安達が他界した後の1960年に鏡子夫人が自らの全財産を寄付して設立。国際法を専攻する大学院生数人を選び給付型奨学金を支給しているほか、国際法で優れた研究業績を残した人に記念賞を授与するなどの活動を行っている。

(長岡伸明)